

半導体コンソーシアムに参画

東北の競争力強化先導

弘前大学は、25日に設立される東北地方の半導体産業を振興する産官学連携の民間団体「東北半導体・エレクトロニクスデザインコンソーシアム」に参画し、同大学院理工学研究所所属の教員らが同団体を先導することを明らかにした。これまで参画していた「東北半導体・エレクトロニクスデザイン研究会」の組織解

消に伴うもので、民間主導の共同事業体設立で産業の競争力強化と人材育成を加速させる狙いがある。

22日、福田眞作学長らが定例会見で明らかにした。同団体の活動内容について、理工学部長の金本俊幾教授は「東北地方に立地する半導体関連産業、教育機関と連携して、人材育成、サプライチェーン（供給

網)の強化を中心に協力、展開する」と説明。地元企業などの参加を呼び掛けており、申し込みの受け付け開始は5月ごろからを予定しているとした。

同学部はまた、昨年7月に設置したリチウム資源総合研究機構の強化を図るため、年内に「リチウムコア技術開発センター」を設置

する方針を明らかにした。

リチウム資源を国内企業に安定供給するサプライチェーン創成の基盤となるコア技術の開発と高度化に向けた研究を加速させ、同機構の研究グループが開発を進めているリチウム採取、回収技術の早期実用化を目指す計画だ。

(稲葉智絵)

※この画像は当該ページに限って
陸奥新報社が利用を許諾したものです。
[問合せ先]弘前大学理工学研究所
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp